

2022年5月11日

京阪グループ 気候変動対応アクションプラン 「BIOSTYLE環境アクション2030」を策定します

- 「2050年度のCO₂排出量実質ゼロを目指して、2030年度のCO₂排出量46%削減(2013年度比)」を目標に設定します
- 「BIOSTYLE PROJECT」を推進し、環境ビジネスを創出しやすい風土を醸成します

京阪ホールディングス株式会社(本社：大阪市中央区、社長：石丸昌宏)および京阪グループ各社では、2030年までにより良い世界を目指すSDGsの達成に貢献するべく「BIOSTYLE PROJECT」に取り組んでいます。指針のひとつに「GOOD for Earth(地球に良いか)」を掲げ、環境や地球に良い取り組みを打ち出してきました。今般、京阪グループでは、京阪グループ全社を対象に、目標年次を2030年度として、京阪グループ 気候変動対応アクションプラン「BIOSTYLE環境アクション2030」を策定しました。アクションプランの推進を通じて、温室効果ガスの削減、廃棄物の削減・水資源の有効利用をはじめとする環境課題に積極的に取り組み、とりわけCO₂排出量の削減については数値目標を設定し、着実に推進してまいります。

〈CO₂排出量に関する数値目標〉

「2050年度のCO₂排出量実質ゼロを目指して、
2030年度のCO₂排出量46%削減(2013年度比)」

京阪グループでは、2014年から「楽しみながら、健康的で良いものを自分らしく取り入れるライフスタイル」=「BIOSTYLE」を提案し、2020年からは「BIOSTYLE」=「京阪版SDGs」と位置づけて、「BIOSTYLE PROJECT」に取り組んでいます。

「BIOSTYLE環境アクション2030」策定にあたり、同プロジェクトにおける評価指標にもCO₂排出削減量を加え、グループ各社で環境ビジネスを創出しやすい風土を醸成します。また、環境経営を推進する体制を強化し、脱炭素をはじめとした環境課題に取り組んでまいります。

詳細は以下のとおりです。



I. 「BIOSTYLE環境アクション2030」について

京阪グループでは、「BIOSTYLE」=「楽しみながら、健康的で良いものを自分らしく取り入れるライフスタイル」を2014年から提案。その後「BIOSTYLE」を「京阪版SDGs」と位置づけ、持続可能な社会に貢献できる商品・サービス、事業を創り上げることを目指してきました。私たちは、環境課題についても、引き続きこの枠組みのなかでグループをあげて取り組みます。とりわけ気候変動対応については、世界的な課題であり、事業継続のためにもCO₂排出量の削減が重要な経営課題であるという認識のもと最優先で取り組んでまいります。

※京阪グループでは、2021年に「京阪グループ環境方針」を定め、①温室効果ガスの削減、②廃棄物の削減・水資源の有効利用を重点項目とし、グループ全体で環境経営を推進しています。「BIOSTYLE環境アクション2030」では、この方針に則り、2030年をゴールとする具体的なアクションを定めます。

1. 数値目標の設定

(1) CO₂排出量削減目標

温室効果ガスのうちCO₂排出量の削減について具体的な数値目標とロードマップを定め、着実に目標を達成してまいります。

【CO₂排出量削減目標】

「2050年度のCO₂排出量実質ゼロを目指して、
2030年度のCO₂排出量46%削減（2013年度比）」

※CO₂排出量削減目標は、省エネ法定定期報告の対象となる特定事業者9社（京阪ホールディングス㈱、京阪電気鉄道㈱、京阪バス㈱、京阪建物㈱、㈱京阪流通システムズ、㈱京阪百貨店、㈱京阪ザ・ストア、㈱ホテル京阪、京阪ホテルズ&リゾート㈱）のCO₂排出量（Scope1、Scope2）を対象としています。2013年度の同9社の排出量は261,134tでした。

(2) 主な取り組み

	主な取り組み
エネルギー使用量の削減	<ul style="list-style-type: none">■ お客様の志向の変化に対応したダイヤ編成■ 営業店舗・事務所等における省エネのさらなる推進■ エネルギーマネジメント強化によるエネルギー効率の向上
CO ₂ 排出量抑制に資する設備投資	<ul style="list-style-type: none">■ 省エネルギー車両、電気バスの導入■ 環境配慮型建物（グリーンビルディング・ZEB/ZEH）への取り組み■ 保有施設の照明の100%LED化■ 空調・ガス等の設備更新
クリーンエネルギーの利用	<ul style="list-style-type: none">■ 再生可能エネルギーの購入■ カーボンオフセットの実施検討■ 自社施設や敷地を活用した太陽光発電の導入検討
脱炭素ビジネスの創出・地域連携による次世代のまちづくり	<ul style="list-style-type: none">■ 脱炭素社会で選ばれる商品・サービス、事業の創出（BIOSTYLE PROJECTのさらなる推進）■ 沿線自治体との連携

【(取り組み事例) 省エネルギー車両・電気バスの導入】

京阪電気鉄道株式会社では、省エネルギー車両 13000 系の導入を進めています。13000 系は従来車両 (2600 系) に比べ、走行時の使用電力を約 35%削減できます。2020 年度から 2021 年度にかけて新たに 6 編成導入し、現在 20 編成 (計 113 両) を運行しています。また、京阪バス株式会社では、2021 年 12 月より京都市内で運行する路線バス「ステーションループバス」の全車両に電気バスを導入しました。今回の電気バス導入によるCO₂排出量削減効果は 155t/年と試算しており、今後も順次導入してまいります。



(左) 13000 系 (京阪電車)

(右) 電気バス (京阪バス)

【(取り組み事例) 沿線自治体との連携】

当社は、「BIOSTYLE環境アクション2030」策定にあたり、枚方市が推進する脱炭素に取り組むモデル事業「ネット・ゼロシティ Hirakata style」への協力等、包括連携協定の内容を発展させ「持続可能な地域社会の実現に向けた包括連携協定」を締結します。詳しくは、本日よりリリースの「枚方市と京阪ホールディングスが『持続可能な地域社会の実現に向けた包括連携協定』を締結します」をご参照ください。

(3) 気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) 提言への賛同表明について

当社は、本日付けで気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) の提言への賛同を表明し、その枠組みに沿った情報を開示しました。詳しくは、本日よりリリースの「気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) 提言への賛同表明及び情報開示について」をご参照ください。当社は、気候変動に関する財務情報開示を積極的に進めていくという TCFD 提言の趣旨に賛同し、当社グループの事業に影響を及ぼすリスクや機会を評価するとともに、気候関連のシナリオ分析や戦略策定を進め、4 要素 (「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」) の情報開示に努めます。



2. 廃棄物の削減・水資源の有効利用など

「BIOSTYLE環境アクション2030」では、廃棄物の削減・水資源の有効利用にも取り組みます。廃棄物量と水使用量をグループ全体で管理し環境負荷低減に努めるほか、リサイクルの推進など、グループ各社の具体的施策を共有し、取り組みの拡大に努めます。

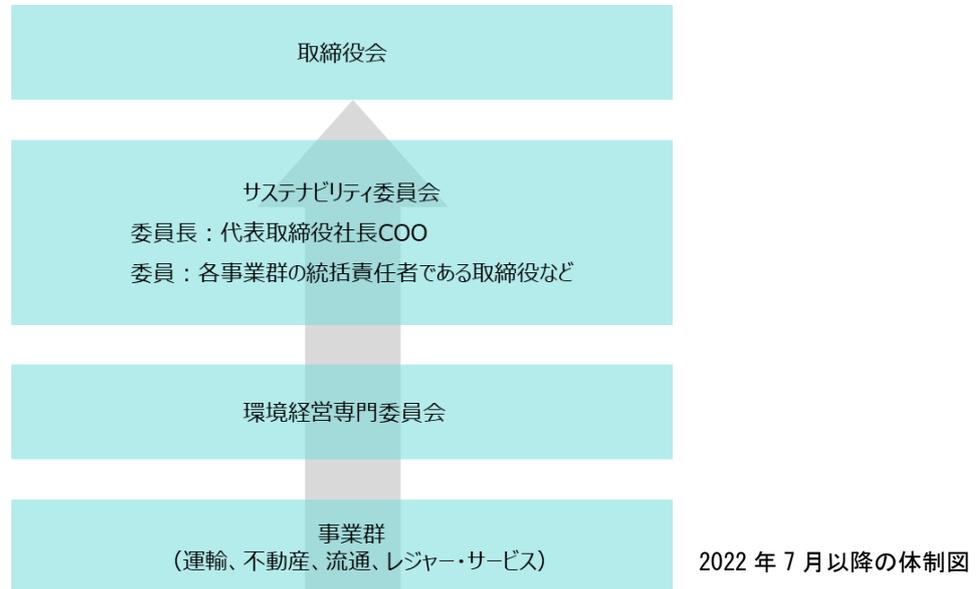


(左) コンポストで食品廃棄物を堆肥化 (GOOD NATURE STATION)

(右) 車両を洗車する際、汚れの場所や程度に応じて洗車箇所や洗車速度をコントロール (京阪電車)

II. 目標達成に向けたガバナンス体制の整備について

「BIOSTYLE環境アクション2030」策定にあたり、2022年1月には「気候変動対応タスクフォース」を立ち上げるとともに、2022年7月に現在の「京阪グループCSR委員会」を「サステナビリティ委員会」に改称する等、体制を再整備し、脱炭素（削減目標設定・進捗管理、TCFDの枠組みに沿った開示の充実検討等）、廃棄物削減、水資源有効利用などの環境課題への対応を取り進めてまいります。



SDGsを実現するライフスタイルを提案する

京阪グループの「BIOSTYLE PROJECT」について

健康的で美しく、クオリティの高い生活を実現しながら、SDGsの達成にも貢献していく。京阪グループでは、そんな循環型社会に寄与するライフスタイルを「BIOSTYLE(ピオスタイル)」として展開し、お客さまにご提案しています。

規制や我慢だけから生まれる活動ではなく、“人にも地球にもいいものごとを、毎日の生活の中に、楽しく、無理なく、取り入れていくことができる明るい循環型社会の実現”

に貢献するため、京阪グループにできる様々な活動を推進していきます。

▶ 「BIOSTYLE PROJECT」について詳しくはこちら <https://www.keihan-holdings.co.jp/business/BIOSTYLE/>

KEIHAN
BIOSTYLE
PROJECT

京阪グループのSDGsピオスタイルプロジェクト

以上